

令和8年度第3年次編入学小論文試験

(試験時間 90分)

畜産科学課程：ユニット共通課題

農福連携は、農業と福祉の取組主体が連携し、障害者が農業分野で働く機会を持つことで、社会参加の促進と農業経営の発展を同時に目指す取組である。近年では、農作物の生産に加えて加工や販売、レストランの運営など、多様な活動が展開されている。こうした動きを受け、政府は官民一体となって農福連携をさらに推進するため、2019年に「農福連携等推進ビジョン」を策定し、「2024年度末までに新たに3,000件の農福連携の取組主体を創出する」との目標を掲げた。その結果、2023年度の調査では、取組主体は4年間で3,062件増加し、合計7,179件となり、目標は達成されている。

しかしその一方で、①認知度向上（知られていない）、②取組のきっかけと定着（踏み出しにくい）、③取組の拡大と成長（広がっていない）、といった課題も指摘されている。これらの課題に対し、例えば「①認知度向上」については、「ノウフクJAS*」制度の活用などによる戦略的なプロモーション活動が展開されている。また、「③取組の拡大と成長」に関しては、農業関係者、福祉関係者、地域住民など多様な関係者を巻き込む様々な連携組織の設立が進められている。

以下の1)、2)の内容について、両方をあわせて合計1,000文字程度になるように論じなさい。

- 1) 持続可能な社会の実現に貢献することが期待されている農福連携について、農業者の立場から見た意義と、福祉関係者の立場から見た意義を、それぞれ具体的に説明しなさい。
- 2) 農福連携の課題のひとつである「②取組のきっかけと定着」について、補助金や一時的な資金援助以外の方法で、取組主体が活動を始めやすく、かつ長期的に継続しやすくなるためには、どのような仕組みや支援策が必要か、あなたの考えを述べなさい。

*ノウフクJAS：障害者が生産工程に携わった食品及び観賞用の植物の日本農林規格をいう。

引用資料

「農福連携等推進ビジョン」農福連携等推進会議，2019，2024

「令和6年度食料・農業・農村の動向」農林水産省，2025